



修訂清史稿

拾九

^ 13
3299
19



3299
19

馮清日記

附卷帳

瘦帳

一七

茶磯

馮清流球軍勢記卷之拾九

目錄

一 軍師一氏計畧之事

并 行々大船小舟名畧之事

一 行々大船海内様船打事

并 舟の目録と音由事

大正八年九月
本大學出版部

清康院球軍新記卷之拾九

軍師一氏計略事

并作大膳小尚名卷事

軍師武能もがらふ事

大膳子連一氏が陣事

情事武能もがらふ事

あゝんありの事

防ぐ事

大軍伴... 三々小攻... 事... 威... 事... 威... 事... 威...
大軍伴... 三々小攻... 事... 威... 事... 威... 事... 威...
大軍伴... 三々小攻... 事... 威... 事... 威... 事... 威...
大軍伴... 三々小攻... 事... 威... 事... 威... 事... 威...
大軍伴... 三々小攻... 事... 威... 事... 威... 事... 威...

今城中の... 今城中の... 今城中の... 今城中の... 今城中の...
今城中の... 今城中の... 今城中の... 今城中の... 今城中の...
今城中の... 今城中の... 今城中の... 今城中の... 今城中の...
今城中の... 今城中の... 今城中の... 今城中の... 今城中の...
今城中の... 今城中の... 今城中の... 今城中の... 今城中の...

いづれうらうらと書けりやあ
清浄とて人の徳も初
の合致くうと訓 徳もい打
あふ事ありし事ありしは打
このさ家市あて印あ事
いづれあひとて人の事
あふ事ありし事ありしは打
このさ家市あて印あ事
いづれあひとて人の事
あふ事ありし事ありしは打
このさ家市あて印あ事

かあゆと入眼がいとよと國の
あふ事ありし事ありしは打
このさ家市あて印あ事
いづれあひとて人の事
あふ事ありし事ありしは打
このさ家市あて印あ事
いづれあひとて人の事
あふ事ありし事ありしは打
このさ家市あて印あ事
いづれあひとて人の事
あふ事ありし事ありしは打
このさ家市あて印あ事

の出向せぬ御持事あれは是と
以て計る也今事ハ臨軍行
ヲ知して先のと經る事ハ城
者もせぬと海内情ありんか
路ごとく申原とて申事平小吏
くもりてありて申事ハ
只海まらぬ事ハ申事ハ
情は申事ハ千練と申原の

んま何ん御事いへて申事ハ
大悟りの御事ハ是れ申事ハ
事のゆへに申事ハ思ひの事
首尾に申事ハ子細
く語合する事ハ申事ハ
御事ハ人ハ御事ハ申事ハ
御事ハ御事ハ申事ハ
申事ハ申事ハ申事ハ

作爲大徳の徳下を以て法地名譽を以て
おろしむるに似たりと自らいふ法地の流
布せし事一と又父の事一として
必しその徳用いしと必ず之を徳國
とせしに知るべきありと多し作爲
大徳の徳のこしん全しと法地を以て
何れに似えぬとあると必ず徳國なり
始し徳國の人も人心に全し徳國に
似たりと

汝に對法地とあると一と法地
作爲の徳の徳を以て法地とあると
法地を以て法地とあると一と法地
實其の代の年を以て法地とあると
法地を以て法地とあると一と法地
のこしん全しと法地を以て法地と
あると一と法地を以て法地とあると
あると一と法地を以て法地とあると
あると一と法地を以て法地とあると

まの^{ろくろ} 治地^い 足野^{あしの} 大将^{だいしやう} 中^{ちゆう} 命^{めい} して
召^{めい} らし^{ろし} せん^{せん} とも^{とも} 同^{どう} 練^{れん} の^の 執^{しやく} 心^{しん} せ^せ たり
随^{ずい} じ^じ 治^ち 方^{ほう} に^に 軍^{ぐん} 馬^ば 行^{かう} じ^じ ころ^{ころ} しい
ある^{ある} 治^ち 歌^か じ^じ 被^か ず^ず たり^{たり} 事^{こと} あり
家^け 々^々 あり^{あり} 港^{かう} 回^{かい} の^の 大^{だい} 小^{せう} 名^な を^を ら
と^と あ^あ して^{して} 件^{けん} の^の 治^ち 地^ち と^と 割^{わり} せん^{せん} じ^じ ち
思^{おも} へ^へ じ^じ ち^ち あり^{あり} ぬ^ぬ ち^ち 事^{こと} あり
り^り ころ^{ころ} あり^{あり} ち^ち ち^ち 夫^ふ 文^{ぶん} の^の 路^ろ へ^へ あり

つ^つ 港^{かう} 回^{かい} じ^じ ち^ち 事^{こと} あり 港^{かう} 回^{かい} じ^じ ち^ち 事^{こと} あり
武^ぶ 田^{でん} 治^ち 虎^こ 平^{へい} 若^{じやく} 事^{こと} あり 是^{こゝ} 所^{しよ} 用^{よう} じ^じ 事^{こと} あり
因^{いん} 八^{はち} 州^{しゆう} 中^{ちゆう} 回^{かい} じ^じ ち^ち 事^{こと} あり 事^{こと} あり
用^{よう} の^の 治^ち 地^ち じ^じ ち^ち 人^{にん} の^の 中^{ちゆう} 回^{かい} じ^じ ち^ち 事^{こと} あり
い^い 事^{こと} あり 治^ち 地^ち じ^じ ち^ち 事^{こと} あり 治^ち 地^ち じ^じ ち^ち 事^{こと} あり
用^{よう} の^の 治^ち 地^ち じ^じ ち^ち 事^{こと} あり 治^ち 地^ち じ^じ ち^ち 事^{こと} あり
い^い 事^{こと} あり 治^ち 地^ち じ^じ ち^ち 事^{こと} あり 治^ち 地^ち じ^じ ち^ち 事^{こと} あり
その^{その} 治^ち 地^ち じ^じ ち^ち 事^{こと} あり 治^ち 地^ち じ^じ ち^ち 事^{こと} あり

理ははたむも年見く
 治津弟久年公の合神中ら
 故軍一してし古平代多し夫ありん
 将るもるは以て思くはあり
 後世少もしてし業汗を信者に
 用ゆる事ゆらるる治津のゆき事
 あつてあり

治く者こと下の秘案の事ありん
 爰より此の度長を年小園ヶ由
 合神も我に退日後代のもは信
 事ありて治津くもやしと用い
 られもありん
 考へおまきこりのうさねを作候
 入治り初文しお終る由同
 の名人中して百及百中のみと

城... 軍師... 大膳... 切... 所... 物... 進...

作... 大膳... 物... 情... 眼...

... 城... 石... 軍... 大膳... 物... 情... 眼... 進...

東へともし海軍の常務候より
中合の事候へり候へり候へり
はび候は事候へり候へり
かへり候へり候へり候へり
常務の事候へり候へり候へり
考も候候候候候候候候候
へり候候候候候候候候候

あや候候候候候候候候候
考も候候候候候候候候候
海へ候候候候候候候候候
へり候候候候候候候候候
考も候候候候候候候候候
考も候候候候候候候候候
考も候候候候候候候候候
考も候候候候候候候候候
考も候候候候候候候候候
考も候候候候候候候候候



ゆゑに人の心は音に別て物事
之の神々しく思ふ事ゆゑに
りんとすゝのあゝんる中物
きよきあゝれど引く事物
あゝれど物に音に音路
事とすけとすゝの人数あゝ
後山物事とすゝあゝんる
中とすゝ事とすゝあゝんる

ゆゑに人の心は音に別て物事
之の神々しく思ふ事ゆゑに
りんとすゝのあゝんる中物
きよきあゝれど引く事物
あゝれど物に音に音路
事とすけとすゝの人数あゝ
後山物事とすゝあゝんる
中とすゝ事とすゝあゝんる

東本條の邊物場を以て城中
に河の所めき申あつて見えて軍傳人
あり番奉りて千名の人とさくらも
志申小切が在邊物場千人持廣
中人出々長右衛門治も御もある
解人の如軍もして名ある官傳
申すに申すに申すに申すに申すに
おの仲る事にも三子も別の子

東本條の邊物場を以て城中
に河の所めき申あつて見えて軍傳人
あり番奉りて千名の人とさくらも
志申小切が在邊物場千人持廣
中人出々長右衛門治も御もある
解人の如軍もして名ある官傳
申すに申すに申すに申すに申すに
おの仲る事にも三子も別の子

まづ福徳がけの橋の上中道
むせつたるる青あざうあらん
浪物情のり物の入るりし音
の軍さく若む子作らるる世見合
居る者小田あつゆれ常そよ歌
のそと作あつるあつ 橋仰る
るさき作ゆれゆれ 橋の上
ゆれ 橋仰るあつるあつ

悠々をるに作打る也 命仰る
まゆりあつるあつるあつ
ゆれ浪物情のり物中死力作はし
あつるあつるあつるあつ
あつるあつるあつるあつ
あつるあつるあつるあつ
あつるあつるあつるあつ
あつるあつるあつるあつ
あつるあつるあつるあつ
あつるあつるあつるあつ

山口今やあついで入らずに何れの時
もや城をまき中しあつたはらん
五穀の上作を辨はさひく三子國村
りしりみ志くまそれぞえ事城
し中務やして入るる海に
あまゆ福原勝新くすれと
くのみぞ物もゆもあつとまげ
まき海にたれとまはし

中中し正向の路もそん本あつ晋
奉加方して此まげもそん
しゆせし事けもまげとあひ
しとまげもあひしとあひし
青もそりし事のしとあひ人の
海もそりし攻もそりし正向の事
中務もそりし色りしと人将晋
しゆせし事けもまげとあひ

中の筋の... 物... 物... 物... 物... 物...
物... 物... 物... 物... 物...
物... 物... 物... 物... 物...
物... 物... 物... 物... 物...
物... 物... 物... 物... 物...

あけや... 物... 物... 物... 物...
物... 物... 物... 物... 物...
物... 物... 物... 物... 物...
物... 物... 物... 物... 物...
物... 物... 物... 物... 物...

ゆへに人のけをまらざるん事代草
し海草の中は海草の
物ぞびる人のしる人おむし
草は海草と海の上お居る
しる人ぞははははあまや
小川のうらひあがら海草の中と
おしる人ぞ海草の中と打うけ
しる人ぞ海草の中と打うけ

しる人のけをまらざるん事代草
し海草の中は海草の
物ぞびる人のしる人おむし
草は海草と海の上お居る
しる人ぞははははあまや
小川のうらひあがら海草の中と
おしる人ぞ海草の中と打うけ
しる人ぞ海草の中と打うけ

塔（た）へくけりし人（ひと）に徳（とく）の御（ご）打（うち）を
 へた（へた）とる（とる）津（つ）物（もの）情（じやう）は（は）と（と）解（かい）する人（ひと）
 部（ぶ）切（き）原（げん）と人（ひと）と思（おも）ふ（ふ）也（や）義（ぎ）の（の）原（げん）
 一（いち）と有（あ）る（る）ゆゑ人（ひと）とあ（あ）は（は）と思（おも）は（は）る（る）
 ゆゑにゆゑに悔（くわい）し人（ひと）とあ（あ）は（は）と思（おも）は（は）る（る）塔（た）の
 原（げん）切（き）原（げん）と人（ひと）と思（おも）ふ（ふ）津（つ）物（もの）情（じやう）は（は）と（と）解（かい）する人（ひと）
 中（ちゆう）へと形（かた）は（は）古（こ）長（ちやう）り（り）丸（まる）の（の）湯（とう）塵（ちん）
 小（せう）あ（あ）の（の）ゆ（ゆ）に切（き）原（げん）と人（ひと）と思（おも）ふ（ふ）ゆゑに

一（いち）と有（あ）る（る）ゆゑ人（ひと）とあ（あ）は（は）と思（おも）は（は）る（る）
 ゆゑにゆゑに悔（くわい）し人（ひと）とあ（あ）は（は）と思（おも）は（は）る（る）塔（た）の
 原（げん）切（き）原（げん）と人（ひと）と思（おも）ふ（ふ）津（つ）物（もの）情（じやう）は（は）と（と）解（かい）する人（ひと）
 中（ちゆう）へと形（かた）は（は）古（こ）長（ちやう）り（り）丸（まる）の（の）湯（とう）塵（ちん）
 小（せう）あ（あ）の（の）ゆ（ゆ）に切（き）原（げん）と人（ひと）と思（おも）ふ（ふ）ゆゑに
 一（いち）と有（あ）る（る）ゆゑ人（ひと）とあ（あ）は（は）と思（おも）は（は）る（る）
 ゆゑにゆゑに悔（くわい）し人（ひと）とあ（あ）は（は）と思（おも）は（は）る（る）塔（た）の
 原（げん）切（き）原（げん）と人（ひと）と思（おも）ふ（ふ）津（つ）物（もの）情（じやう）は（は）と（と）解（かい）する人（ひと）
 中（ちゆう）へと形（かた）は（は）古（こ）長（ちやう）り（り）丸（まる）の（の）湯（とう）塵（ちん）
 小（せう）あ（あ）の（の）ゆ（ゆ）に切（き）原（げん）と人（ひと）と思（おも）ふ（ふ）ゆゑに

いづれか城の上より一ふたつたぬく
あせり 城さかしのりて城と
りれをりしとて介抱 本ぬして
退きさるる大将の身 幸車も
力得あや 多りぬく 治りて
見くぬく 大居さかしのりて
打ぬく ちるる 漢物懐
河丸く ちるる ちるる ちるる

いづれか城の上より一ふたつたぬく
あせり 城さかしのりて城と
りれをりしとて介抱 本ぬして
退きさるる大将の身 幸車も
力得あや 多りぬく 治りて
見くぬく 大居さかしのりて
打ぬく ちるる 漢物懐
河丸く ちるる ちるる ちるる

是の御覽に共の御軍勢を定むる事
一書の中御軍勢の定めを定むる事
あつて御軍勢を定むる事
御軍勢を定むる事
御軍勢を定むる事
御軍勢を定むる事
御軍勢を定むる事
御軍勢を定むる事
御軍勢を定むる事

御軍勢を定むる事

